



今年度の県外派遣者を紹介します！

今年度は、岡山県の長期研修者として、秋田県能代市立能代第二中学校へ田原裕也教諭が、大分県中津市立豊陽（ほうよう）中学校へ黒明堅一郎教諭が、それぞれ派遣されています。「県外レポート通信」では、この2名のレポートをもとに秋田県と大分県、それぞれの学校の取組を紹介していきます。

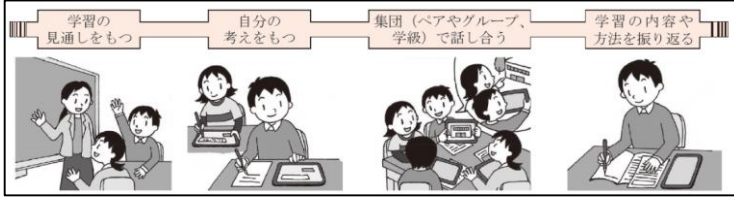
秋田県能代市立能代第二中学校

レポートテーマ

「あき『探』」～秋田の授業に学ぶ～

(図1)「秋田の探究型授業」の基本プロセス

出典：秋田県教育委員会「令和5年度学校教育の指針」



研究主任が(図1)を引用し、「基本プロセス」について全教員で共通理解を図りました。今年度の研究では、「**図表を使って表現**」「**伝え合う言語活動**」の充実を掲げています。



数学科の授業の一コマです。
1人1台端末を活用し、**根拠を示しながら互いの考えを説明**しています。互いの意見を交流し、**学び合うことが習慣化**しています。



年度初めの職員会議で、工藤校長先生が一番時間をかけて語られたことは、「**授業**」についてでした。学習指導要領や県・市教委の施策と結び付け、能代第二中の授業づくりについて熱く語る姿が印象的でした。教職員一人一人との「**ビジョンの共有**」が大切なんです！

今後、秋田の授業や学校経営から学んだことをお伝えしていきます！

大分県中津市立豊陽中学校

レポートテーマ

「大分の『芯』」～3つの提言を核にした学校組織～

(図2)

中学校学力向上対策 3つの提言

大分県教育委員会(令和5年2月版)

1 「新大分スタンダード」に基づく組織的な授業改善の推進

- ① 「新大分スタンダード」に基づく組織的な授業改善による主体的・対話的で深い学びの実現
- ② 教科の壁を越え、全ての教科に共通した研究テーマ(授業改善に係る取組内容、取組指標等)の設定

2 各教科等の指導力向上の仕組みの構築

- ① 近隣校との連携やタテ持ちの実施等による計画的・継続的な教科部会の実施
- ② 上記仕組みを活用した、教員の教材解釈力や授業構想力、評価力、作問力等の向上

3 「生徒と共に創る授業」の推進

- ① 生徒による授業評価を活用した授業改善
- ② 学習集団としての目標設定や振り返りの実施及び特別活動の充実による「学びに向かう学習集団」づくり

豊陽中は、今年度から「**中学校学力向上対策3つの提言**」を核とした授業改善推進校として研究を進めています。(図2)に加え、「**キーワード**」「**見通し場面**」「**学習リーダー**」の**深化**を意識した授業づくりを目指しています。

「**授業改善**」を重点目標の最優先事項とし、今長校長先生のビジョンの下、全教職員に取組が浸透するよう研究主任を中心に授業改善プロジェクトチームを立ち上げ、組織的な授業改善や若手教員の人材育成等を進めています。大分も岡山と同様に「**チーム**」を大切にしています！

今後、大分の組織づくりや授業改善等について学んだことをお伝えしていきます！



英語科(左)、数学科(右)の授業の一コマです。音読を録音したり、数直線を参考に説明したり、生徒が1人1台端末を主体的に活用しています。

